

東鳳翺山の今、2022.11.8

山口支部 S52 経済卒 古谷眞之助

2022.11.12 記

東鳳翺山に登るのは6年半ぶりのことです。その間は萩往還のボランティアガイド活動に注力していて、6年半前に登ったのも、萩往還ガイドコースに東鳳翺山が取り入れられないかを検討するためにガイド仲間と登った次第です。今年7月に吉田



山大ワングルの「わが心の山」、東鳳翺山の近況をお知らせします。11月8日に登った時の最新情報です。なおアルファベットの囲み文字は2ページ掲載の地図で位置を示しています。



今回は最もオーソドックスな二つ堂コースを登りました。出発点は一の坂ダムの上流部に設けられたグランド側の駐車場 **F**

です。朝7時過ぎ、この日は冷えて、ダム湖の湖面はご覧の通り白い霧が沸き上がっていました。このグランドは臨時ヘリポートに指定されています。但しここに降りたのは見たことがありません。



因みに山口県内には407カ所が臨時離着場として指定されています。上天花の集落は下のような感じです。写真では見にくいですが、右手奥には山口県山岳会元会長さんの山小屋があります。上天花の集落からは鳳翺山頂は望めません。また、この集落には新たに移り住んできた人もいるようで、真新しい洒落た家も2軒ほどありました。



類氏が全国の低山を案内する「にっぽん百低山・東鳳翺山」に出演したのも、登山ガイドとしてではなく六軒茶屋 **A** で萩往還と東鳳翺山に関する歴史を語るためでした。ご覧いただいた方もおられるのではないかと思います。地元山口では再放送、別番組での放送も含めて合計4回位は放送されたと思います。法被姿が私です。この日山頂で出会った東鳳翺登山常連の方の話では、放送後には遠く大阪や福岡から登山者が押し寄せて山頂に80名位が集まったこともあるのだとか。しかし、これは少々大袈裟な話でしょう。80人があの山頂にいれば大混雑のはずですから。

さて、いよいよ出発です。軽く準備運動をして駐車場を出発したのが、7:37

でした。上天花集落を過ぎると杉木立の中の舗装道を歩きます。道の勾配は意外ときつくて、日頃の



不摂生のためでしょう、早くもふくらはぎに負担を感じます。そして歩くこと16分、懐かしい二つ堂の登山口に到着したのが7:53でした。ここには看板が立っていて、山頂までの標準時間は80分とありました。さて、標準時間内で登れるか大いに不安ですが、昔取った杵柄で何とかなるサ、と階段を登り始めました。



登山口からは杉木立の中を、杉の根で出来た階段を登ってゆきます。

所々、道を整備した場所がありました。こういうに出くわすと、本当に頭の下がる



思いがします。多分、日曜日にボランティアの方がされたのでしょう。今回は使用していませんでしたが、板堂峠からの道もしっかり整備してあります。かつて錬成でよく使った板堂コースのイメージは今はまるでありません。それもこれも地元のボランティア活動と環境省のお陰と言えます。板堂コースは中国自然遊歩道に指定されているからです。



しばらく進むと、道はこんな風に交差します。我々が進んでいるのはジグザグの楽な道です。それと直行している直登コース(矢印)を学生時代は登ったものですが、もはやそんな元気はありません。無理せずに楽な道を選びました。当時と比べてもジグザグの道のエリアはさらに拡大され歩き易くなっています。



登山口から37分で第一展望台[B]に到着。この展望台は私が学生時代にはなかったものです。ただし何年か前の山口での総会時には設けられていました。ここで5分の休憩を取りました。ここから眺めると、山頂付近はかなり木々に覆われているのが

見て取れます。



第二展望台[C]を過ぎ、錦鶏の滝に下るナマナマコースとの分岐[D]を過ぎると、気持ちの良い杉林の中を進んでいきます。この付近は私の好きなエリアの一つです



ここで地図解説をしておきます。赤線が、今回の登山ルート。[P]は出発点の駐車場、[A]が六軒茶屋、[B]が第一展望台、[C]が第二展望台、[D]が錦鶏ノ滝への分岐、[E]が板堂峠からの出会い、[F]点線は大学1年の時に一人で登った懐かしい直登ルートです。

杉林が終わると道は急になりますが、ちょっとした岩場を越えるあたりに、かつての水場に続く道が確認できたのですが、間違えて入り込まないように今では枯れ木で意図的に塞いでありました。学生の時に一度だけ水を汲みに下ったことがあります。



さて、それからほどなく板堂からのコースとの合流点 **E** に到着しました。9:13 でした。登山口から 1 時間 20 分。休憩の 5 分を考慮しても、標準タイムでは山頂まで到達できませんでした。やはりもう寄る年波には勝てませんが、別に構いません。

この付近も下草が綺麗に刈られていて、またベンチもありますから休憩にはもってこいです。以前はこの付近から山頂が眺められたと記憶しているのですが、今は樹々が大きく伸びてまるで見えません。またここから反対側を下る道が地図でも確認できますが、今や草ぼうぼうで荒れ果てているようです。ここを下れば水場があったと聞いたことがあります。私が現役の頃にはすでになかったか、道が荒れて入れなくなったか、一度もそこにいったことはありません。



50 周年記念誌発行の際に永沼先輩より寄贈いただいた左の写真がその水場付近と思われます。1962 年 4 月のリーダー養成時のものと。今では東鳳凰山でキャンプする人は、まずいないと思います。



尾根伝いの道ですが、両側が樹々に覆われて視界は全く効きません。下の写真も寄贈いただいた写真で、1973 年 6 月の錬成時の写真とあります。49 年前、ざっと半世紀前の写真です。こちらは下山時の写真ですが、ほぼ同じエリアだと推測します。



そして、こちらは山頂すぐ手前のちょっとした広いエリアです。かつてここに何度かテントを張ったことがあります。今回もこのエリアは綺麗に草刈りしてあって、テントを張って一泊すれば楽しいだろうなと思ったのですが、もはや、テントに水に食料その他を担ぎ上げる体力はありません。確かに半世紀も



経過して装備は格段に進歩し、高性能化、軽量化を遂げてはいますが、それでも一泊するとすれば、かなりの重さになるでしょう。2 年の錬成時、男岳コースで 44kg を担いで大学まで戻したのは、今や夢幻の如し、です。

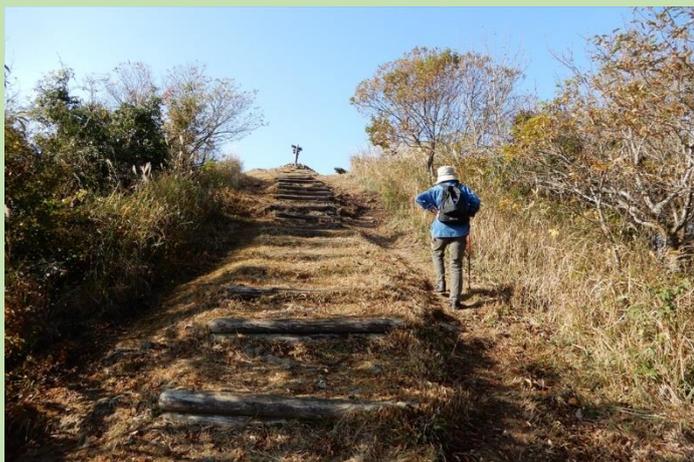
山頂直下に設けられた看板です。実はこの白い看板は私が住んでいる大内御堀付近からでも300mmの望遠レンズを使用すれば、何となく白っぽいものが確認できます。



この看板によれば、十種ヶ峰、青野山も見えるところですが、この日私の目で確認できたのは、遠くの桂木山、秋吉台、手前の男岳、ダツヤ山

でした。

山頂まであとひと踏ん張り。そして・・・



山頂では我が家恒例の三角点の同時タッチ。9:30 でしたから、登山口から1時間37分。駐車場から1時間53分。標準より17分オーバーは許容範囲でしょう。かつては娘たちも同時タッチに加わっていたのですが、今では二人のみです。

山頂からの展望は、実は期待したほどでもありませんでした。間違いなく快晴なのですが、遠くがかすんでくっきりとは見えませんでした。山頂では毎日のように登られておられる私より高齢の常連の皆さんに会いましたが、皆さん異口同音にそのように言われていました。しかし、雨模様でもないのですから贅沢は言えません。それで結局、山頂で遅い朝食を摂った後もしばらく休んで、結局1時間近くもいたのです。ただ、常連の方々は10分もしないうちに「お先に」と一言おっしゃって下山です。もったいないなあ・・・とは思うのですが、そこは6年半ぶりとも毎日との違いなのかも知れません。





男岳方面 左手奥は桂木山



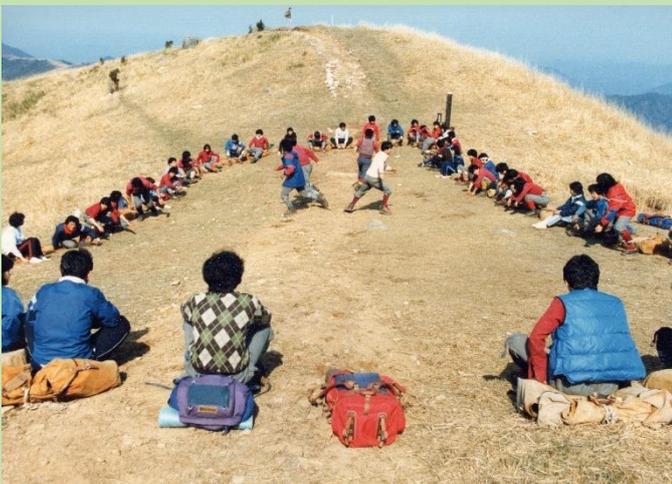
ダツヤ山 右手には十種ヶ峰、青野山が見えるはずですが・・・



小郡方面



西鳳翔山 右手前には、忘年ワンでお世話になった「肩」



「肩」のあたりは右上のように樹木が生い茂り、かろうじてベンチの辺りのみが草刈りがされて開けていますが、昔の面影はありません。上の写真は 1983 年頃と推定される「肩」の写真。隔世の感は否めません。ここでテントを張っておでんを鍋一杯に作り、担ぎ上げた一升瓶を回し飲みして冬休み突入前の忘年ワンをしたのを懐かしく思い出します。

いつそや、強風が吹き荒れて宴会どころではなく、ポールにしがついて何とかテントを支え、朝を迎えたこともありました。それもこれも、今となればひたすら懐かしい思い出です。山頂から「肩」を見下しろながら、もう半世紀近く前のことに思いを馳せたのでした。下山開始は 10:22 でした。



かつてスキの原だった辺りに高いアンテナが立っています。



以下、下りで気になったところと咲いていた花の話題です。

中国自然遊歩道であるだけに、尾根の道にはしっかり階段が設けられています。しかし、私はこれが苦手です。



板堂峠との出会いまで降りてきました。こんな感じにきれいに草刈りがしてありました。



そして、そこから二つ堂への下りには現在、しっかりした二つの道があります。右手が階段ばかりの急な下り道、左がジグザグの巻き道です。上りも下りも巻き道を使用しました。膝にも負担がありませんから高齢者向けです。



再び杉林を抜けて下ります。

再び杉林を抜けて下ります。



学生時代にはなかった錦鶏ノ滝に下る「ナマナマコース」との分岐。左に下れば錦鶏ノ滝です。一度だけ下ったことがあります。看板に書いてある通り、かなり荒れていますから、ハイキングにはお勧めできません。



第二展望台から一の坂ダムとそのダム湖・錦鶏湖が望めます。正面の山は古城ヶ岳です。かつてこの山頂付近には山城があったと言われていました。私は登ったことはありませんが、友人の話では石垣の跡がかすかに残っているそうです。



第一展望台から再び山頂を。



ここにも山道の補修道具が・・・



そして登山口到着、11:32



こちらは上天花集落です。

出発点の駐車場に着いたのは11:48でしたから、下りは1時間26分でした。駐車場から登り1時間53分でしたから、正味3時間19分の6年ぶりの東鳳山登山でした。

最後に、今回の山行で出会った植物などについて掲載します。



野イチゴ



紅葉(柿?)



アオキノキ 実は赤くなっていました。



リンドウ



一の坂ダムから見上げる東鳳山と山口市側です。
最後までご覧いただきありがとうございました。